【２０２３年6月号】

# 医　薬　品　情　報

２０２３年5月２４日発行


１．採用医薬品＜5 月薬事委員会における採用＞

2023 年 5 月 31 日（水）より処方して下さい。

①　ジャディアンス錠 10mg ---------- 1

②　トランデート錠 50mg ---------- 3

２．採用取消医薬品 ---------- 4

３．限定採用薬に関する医薬品情報の提供 ---------- 4

４．後発医薬品の変更について ---------- 5

５．適応追加 ---------- 5

６．医薬品添付文書の改訂（2023 年 5 月，DSU No.317） ---------- 6

７．医薬品・医療機器等安全性情報（2023 年 5 月，No.401） ---------- 7

８．医療安全情報（2023 年 5 月,No.198）

【MRI 検査室への磁性体(金属製品など)の持ち込み(第 3 報)】 ---------- 8

９．使用期限間近の医薬品リスト ---------- １０

10．医薬品情報　経腸栄養剤について ---------- １１



問い合わせ先：独立行政法人地域医療機能推進機構　九州病院

薬剤部 医薬品情報管理室 内線２７２５

選択的SGLT2阻害剤 －2型糖尿病・慢性心不全治療剤－

# ジャディアンス錠10mg

Jardiance Tablets 10mg

（日本ベーリンガーインゲルハイム）

| 薬価収載日 | 2015年2月24日 |
|---|---|
| 薬　　価 | 188.90円 |

一　般　名　　エンパグリフロジン

効能・効果　2型糖尿病

慢性心不全

ただし、慢性心不全の標準的な治療を受けている患者に限る。

＜効能又は効果に関連する注意＞

〈2型糖尿病〉

1. 本剤は2型糖尿病と診断された患者に対してのみ使用し、1型糖尿病の患者には投与をしないこと。
2. 本剤の適用はあらかじめ糖尿病治療の基本である食事療法、運動療法を十分に行った上で効果が不十分な場合に限り考慮すること。
3. 高度腎機能障害患者又は透析中の末期腎不全患者では本剤の効果が期待できないため、投与しないこと。
4. 中等度腎機能障害患者では本剤の効果が十分に得られない可能性があるので投与の必要性を慎重に判断すること。

〈慢性心不全〉

5. 「臨床成績」の項の内容を熟知し、臨床試験に組み入れられた患者の背景（前治療等）を十分に理解した上で、適応患者を選択すること。

用法・用量　〈2型糖尿病〉

通常、成人にはエンパグリフロジンとして10mgを1日1回朝食前又は朝食後に経口投与する。なお、効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら25mg1日1回に増量することができる。

〈慢性心不全〉

通常、成人にはエンパグリフロジンとして10mgを1日1回朝食前又は朝食後に経口投与する。

＜用法及び用量に関連する注意＞

2型糖尿病と慢性心不全を合併する患者では、血糖コントロールが不十分な場合には血糖コントロールの改善を目的として本剤25mgに増量することができる。ただし、慢性心不全に対して本剤10mg1日1回を超える用量の有効性は確認されていないため、本剤10mgを上回る有効性を期待して本剤25mgを投与しないこと。

禁　忌　（次の患者には投与しないこと）

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 重症ケトーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡の患者
3. 重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者

重大な副作用 1. 低血糖（1.8%）

低血糖があらわれることがある。低血糖症状が認められた場合には、糖質を含む食品を摂取するなど適切な処置を行うこととし、α-グルコシダーゼ阻害薬との併用時にはブドウ糖を投与すること。

2. 脱水（0.3%）

口渇、多尿、頻尿、血圧低下等の症状があらわれ脱水が疑われる場合には、休薬や補液等の適切な処置を行うこと。脱水に引き続き脳梗塞を含む血栓・塞栓症等を発現した例が報告されている。

3. ケトアシドーシス（頻度不明）

ケトアシドーシス（糖尿病性ケトアシドーシスを含む）があらわれることがある。

4. 腎盂腎炎（0.1%未満）、外陰部及び会陰部の壊死性筋膜炎（フルニエ壊疽）（0.1%未満）、敗血症（0.1%）

腎盂腎炎、外陰部及び会陰部の壊死性筋膜炎（フルニエ壊疽）があらわれ、敗血症（敗血症性ショックを含む）に至ることがある。

αβ遮断性降圧剤

# トランデート錠50mg

Trandate Tablets 50mg

（サンド）

| 薬価収載日 | 1983年2月3日 |
|---|---|
| 薬　　価 | 10.90円 |

一　般　名　ラベタロール塩酸塩

効能・効果　本態性高血圧症
褐色細胞腫による高血圧症

用法・用量　通常、成人にはラベタロール塩酸塩として1日150mgより投与を開始し、効果不十分な場合には1日450mgまで漸増し、1日3回に分割、経口投与する。
なお、年齢・症状により適宜増減する。

禁　忌　（次の患者には投与しないこと）
1.糖尿病性ケトアシドーシス、代謝性アシドーシスのある患者
2.高度の徐脈（著しい洞性徐脈）、房室ブロック（II、III度）、洞房ブロックのある患者
3.(1)心原性ショックの患者
(2)肺高血圧による右心不全のある患者
(3)うっ血性心不全のある患者
4.本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者
5.気管支喘息、気管支痙攣のおそれのある患者

重大な副作用 1.うっ血性心不全があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。
2.肝壊死等の重篤な肝障害、黄疸等があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。なお、このような患者には再投与しないこと。
3.SLE様症状（筋肉痛、関節痛、抗核抗体陽性）、乾癬があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。2)3)
4.ミオパシーがあらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。

## ２．採用取り消し医薬品

(1) チザニジン顆粒 0.2%「日医工」

［販売中止に伴い、テルネリン顆粒 0.2%へ切替え］

## ３．限定採用薬に関する医薬品情報の提供

5 月新規の限定採用薬基本情報

１）＜サイバインコ錠 100mg＞

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 一般名 | アブロシチニブ |
| 2 | 薬効分類名 | ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害剤 |
| 3 | 適応症 | 既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎 |
| 4 | 用法・用量 | 通常、成人及び12歳以上の小児には、アブロシチニブとして100mgを１日１回経口投与する。なお、患者の状態に応じて 200mg を１日１回投与することができる。 |
| 5 | 禁忌 | （次の患者には投与しないこと）<br>1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者<br>2. 重篤な感染症（敗血症等）の患者<br>3. 活動性結核の患者<br>4. 重度の肝機能障害（Child Pugh 分類 C）のある患者<br>5. 好中球数が 1,000/mm3 未満の患者<br>6. リンパ球数が 500/mm3 未満の患者<br>7. ヘモグロビン値が 8g/dL 未満の患者<br>8. 血小板数が 50,000/mm3 未満の患者<br>9. 妊婦又は妊娠している可能性のある女性 |
| 6 | 重大な副作用 | 感染症、静脈血栓塞栓症、血小板減少（1.4%）、ヘモグロビン減少（ヘモグロビン減少 0.9%、貧血 0.6%）、リンパ球減少（0.7%）、好中球減少（0.4%）、間質性肺炎（0.1%）、肝機能障害、消化管穿孔（頻度不明） |
| 7 | 使用部署(診療科) | 院外（皮膚科） |
| 8 | 製薬会社 | ファイザー |
| 9 | 薬価 | 5,044.00 円 |

2）＜ボラザＧ軟膏＞

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 一般名 | トリベノシド・リドカイン軟膏 |
| 2 | 薬効分類名 | 痔疾用剤 |
| 3 | 適応症 | 痔核に伴う症状（出血、疼痛、腫脹）の緩解<br>裂肛に伴う症状（出血、疼痛）の緩解、裂創上皮化の促進 |
| 4 | 用法・用量 | 〈内痔核〉<br>通常１回１容器分（注入量でトリベノシドとして 200mg、リドカインとして 40mg）を、１日２回朝夕肛門内に注入する。症状に応じて適宜回数を増減する。<br>〈裂肛、外痔核〉<br>通常適量を１日２回朝夕患部に塗布又は注入する。症状に応じて適宜回数を増減する。 |
| 5 | 禁忌 | 1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者<br>2. トリベノシド又はアニリド系局所麻酔剤（リドカイン等）に対し過敏症の既往歴のある患者 |
| 6 | 重大な副作用 | アナフィラキシー（頻度不明） |
| 7 | 使用部署(診療科) | 院外（内科） |
| 8 | 製薬会社 | 天藤製薬 |
| 9 | 薬価 | 28.20 円/g　67.68 円/本 |

# ４．後発医薬品の変更について

| 先発医薬品 | 後発医薬品 |
|---|---|
| エルカルチン FF 錠 100mg<br>（大塚製薬）<br>薬価：73.30 円 | レボカルニチン FF 錠 100mg「トーワ」<br>（東和薬品）<br>薬価：39.50 円 |
| エルカルチン FF 錠 250mg<br>（大塚製薬）<br>薬価：216.60 円 | レボカルニチン FF 錠 250mg「トーワ」<br>（東和薬品）<br>薬価：100.10 円 |

# ５．適応追加 (2023/4/22-5/18)

１）レベトールカプセル 200mg

ソホスブビルとの併用療法に関する効能効果、用法用量　を削除

# ６．医薬品添付文書の改訂 （ＤＳＵ No.317 より）

★：警告、◎：投与禁忌、併用禁忌、○：重要な基本的注意、重大な副作用

１）アサコール錠 400 mg（ゼリア）・ペンタサ錠 500 mg・ペンタサ顆粒 94%・ペンタサ坐剤 1g・ペンタサ注腸 1g（杏林製薬）・リアルダ錠 1200 mg（持田製薬）

○：重大な副作用（追記）

中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN）、皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）：

中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

薬剤性過敏症症候群：

初期症状として発疹、発熱がみられ、更に肝機能障害、リンパ節腫脹、白血球増加、好酸球増多、異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状があらわれることがある。なお、ヒトヘルペスウイルス 6（HHV-6）等のウイルスの再活性化を伴うことが多く、投与中止後も発疹、発熱、肝機能障害等の症状が再燃あるいは遷延化することがあるので注意すること。

２）ノベルジン錠 50mg（ノーベルファーマ）

○：重要な副作用（追記）

胃潰瘍：

出血を伴う胃潰瘍があらわれることがある。

３）ビクシリン注射用 0.25g・0.5g・1g（MeijiSeika ファルマ）

○：重要な基本的注意（追記）

肝機能障害があらわれることがあるので、定期的に検査を行うこと。

○重大な副作用（追記）

肝機能障害：

AST、ALT の上昇等を伴う肝機能障害があらわれることがある。

４）オプチレイ 320 注シリンジ・350 注シリンジ（ゲルベ）

○：重大な副作用（一部改訂）

皮膚障害：

皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）、急性汎発性発疹性膿疱症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、発熱、紅斑、小膿疱、そう痒感、眼充血、口内炎等の症状が認められた場合には、適切な処置を行うこと。

# 7．医薬品・医療機器等安全性情報

オーダリング端末の病院情報システムにログイン後、「医薬品情報」内のフォルダ「安全性情報」に格納していますので、ご覧下さい。医薬品・医療機器等安全性情報　(No. 401　2023 年 5 月)

# 医薬品・医療機器等安全性情報

Pharmaceuticals and Medical Devices Safety Information

No. 401

## 目次


1．レニン-アンジオテンシン系阻害作用を有する医薬品の使用上の注意の改訂について …… 3

2．病院及び薬局における医薬品安全性情報の入手・伝達・活用状況等に関する調査結果と望まれる方向について …… 11

3．重要な副作用等に関する情報 …… 20

1 ○アンジオテンシン変換酵素阻害剤（①アラセプリル　他９件）
○アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤含有製剤（①アジルサルタン　他19件）
○直接的レニン阻害剤（①アリスキレンフマル酸塩） …… 20

2 ○アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害剤
（①サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物） …… 24

3 メサラジン …… 25

4 酢酸亜鉛水和物 …… 29

4．使用上の注意の改訂について（その341）
①アジルサルタン（他30件）　他７件 …… 32

5．市販直後調査の対象品目一覧 …… 38


この医薬品・医療機器等安全性情報は，厚生労働省において収集された副作用等の情報を基に，医薬品・医療機器等のより安全な使用に役立てていただくために，医療関係者に対して情報提供されるものです。医薬品・医療機器等安全性情報は，独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページ(https://www.pmda.go.jp/)又は厚生労働省ホームページ(https://www.mhlw.go.jp/)からも入手可能です。

配信一覧はコチラ

PMDAメディナビでどこよりも早く安全性情報を入手できます。

厚生労働省、PMDAからの安全性に関する必須情報をメールで配信しています。登録いただくと、本情報も発表当日に入手可能です。

登録はコチラ

令和５年（2023年）５月

厚生労働省医薬・生活衛生局


◉連絡先

〒100-8916　東京都千代田区霞が関１-２-２

厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課

☎ 03-3595-2435（直通）
03-5253-1111（内線）2757，2791

（Fax）03-3508-4364

# ８． 医療安全情報

医療安全情報（No.198　2023 年 5 月）【MRI 検査室への磁性体(金属製品など)の持ち込み(第 3 報)】が、日本医療機能評価機構より、出されました。同情報は、オーダ端末にログイン後、［医薬品情報］＞フォルダ［緊急安全性情報ほか］に格納していますので、ご覧下さい。

医療事故情報収集等事業

公益財団法人 日本医療機能評価機構

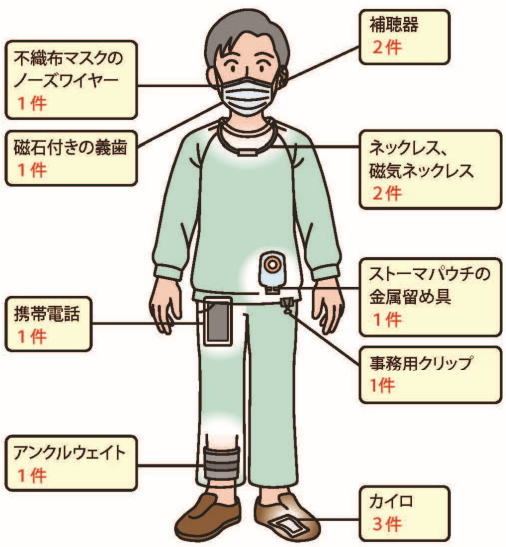
医療事故情報収集等事業
医療安全情報
No.198　2023年5月

## MRI検査室への磁性体(金属製品など)の持ち込み(第3報)

医療安全情報No.10(2007年9月)および医療安全情報No.94(2014年9月)で、「MRI検査室への磁性体(金属製品など)の持ち込み」について注意喚起を行いました。その後、類似事例が報告されており、医療者が磁性体(金属製品など)の有無を確認したにもかかわらず、患者が磁性体を身に着けたままMRI検査室に入室した事例が13件報告されています。(集計期間:2014年8月1日～2023年3月31日)。この情報は、第66回報告書「再発・類似事例の分析」で取り上げた内容をもとに作成しました。

**医療者が磁性体(金属製品など)の有無を確認したにもかかわらず、患者が磁性体を身に着けたままMRI検査室に入室した事例が報告されています。**

事例のイメージ




| 主な背景 |
| --- |
| 診療放射線技師から「金属はないか」と聞かれた際、患者は補聴器を金属とは思わず、伝えなかった |
| 診療放射線技師は患者のマスクを確認し、ノーズワイヤーのないマスクを渡したが、患者は交換していなかった |
| 看護師が磁性体の有無を確認した際、患者は磁気ネックレスがMRI検査室に持ち込めないものだと認識しなかったため、伝えなかった |
| 診療放射線技師が患者に磁性体の有無を確認した際、患者はアンクルウェイトを着けていることを忘れ、伝えなかった |
| 診療放射線技師と看護師が湿布やカイロの貼付の有無を確認した際、患者はカイロを貼っていることを忘れ、「何もない」と答えた |

医療事故情報収集等事業
医療事故情報収集等事業 医療安全情報
No.198　2023年5月

# MRI検査室への磁性体（金属製品など）の持ち込み（第3報）

## 事例 1

MRI検査を受ける患者に、看護師は問診票を使って磁性体の有無を確認した。患者は磁気ネックレスがMRI検査室に持ち込めないものという認識がなかったため、伝えなかった。患者は検査着の中にTシャツを着用していた。診療放射線技師は患者の全身を金属探知機で確認し、反応がなかったため入室可とした。患者がMRI検査台に仰臥位となった瞬間に、着けていた磁気ネックレスが外れ、MRI装置に吸着した。患者に外傷はなく、装置から磁気ネックレスを取り外し、検査を予定通りに行った。

## 事例 2

MRI検査室入室前、診療放射線技師と看護師は問診票を使って金属を身に着けていないか患者に確認した。その際、湿布やカイロなどを貼っていないか尋ねたが、患者は足底にカイロを貼付していることを忘れ、「着けているものはない」と返事をした。MRI検査室へ患者を入室させ、検査台に横になってもらった際に、診療放射線技師が患者の足底にカイロが貼ってあるのを発見した。

一般社団法人日本画像医療システム工業会は、「MRI入室前のチェックリスト」を公表しています。
https://www.jira-net.or.jp/anzenkanri/02_seizouhanbaigo/file/mr_checklist_v1.pdf

## 事例が発生した医療機関の取り組み

- **MRI検査室へ持ち込めないモノを伝えるための写真やイラスト付きの資料を作成し、患者に見せながら具体的に確認する。**

上記は一例です。自施設に合った取り組みを検討してください。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会委員の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。
本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。https://www.med-safe.jp/
※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0252（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
https://www.med-safe.jp/

# ９．使用期限間近の医薬品リスト

(2023 年 5 月現在)

| 年 | 月 | 医薬品名 | 個数 | 薬価 | 在庫金額 | 年間使用量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 6 | アトロピン注０．０５％シリンジ「テルモ」 | 6 | 200 | 1,200 | 407 |
| | | カフェイン水和物原末「マルイシ」 | 0.9 | 242.5 | 218 | 0 |
| | | セフジトレンピボキシル錠１００ｍｇ「ﾄｰﾜ」 | 43 | 37.7 | 1,621 | 311 |
| | | ゾーミッグＲＭ錠２．５ｍｇ | 14 | 537.2 | 7,521 | 0 |
| | | デスモプレシン注４協和 | 9 | 1,539 | 13,851 | 3 |
| | | トリプタノール錠２５ | 16 | 9.8 | 157 | 0 |
| | | ＰＬ配合顆粒 | 63 | 6.5 | 410 | 250 |
| | | ファスティック錠９０ | 28 | 29.2 | 818 | 0 |
| | | ロペラミド小児用細粒０．０５％ | 0.1 | 990 | 99 | 1.6 |
| | 7 | アトロピン注０．０５％シリンジ「テルモ」 | 8 | 200 | 1,600 | 407 |
| | | イノラス配合経腸用液 | 25 | 273.75 | 6,844 | 281 |
| | | 乾燥ＨＢｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ筋注用 1000 単位「ﾆﾁﾔｸ」 | 1 | 36,939 | 36,939 | 1 |
| | | 静注用キシロカイン２％ | 1 | 94 | 94 | 1377 |
| | | ビタミンＢ６散１０％「マルイシ」 | 0.9 | 8,150 | 7,335 | 0.1 |
| | | 硫酸ストレプトマイシン注射用１ｇ「明治」 | 10 | 396 | 3,960 | 2 |
| | 8 | オルガラン静注１２５０単位 | 2 | 994 | 1988 | 0 |
| | | オルミエント錠４ｍｇ | 25 | 5,274.9 | 131,873 | 0 |
| | | ゾルトファイ配合注フレックスタッチ | 1 | 4,847 | 4,847 | 464 |
| | | セフジトレンピボキシル細粒小児用10%「ﾄｰﾜ」 | 0.5 | 12,850 | 6,425 | 0.7 |
| | | トラバタンズ点眼液０．００４％ | 3 | 1,361.5 | 4,085 | 5 |
| | | ヒューマログミックス５０注ミリオペン | 1 | 1,251 | 1,251 | 14 |
| | | プロスタルモン・Ｆ注射液１０００ | 1 | 496 | 496 | 33 |

処方可能な薬剤がございましたらご協力お願いいたします

# １０．医薬品情報　経腸栄養剤について

経腸栄養剤は腸が機能している患者の栄養管理で用いられる製剤であり、配合されている窒素源の形態によって成分栄養剤、消化態栄養剤、半消化態栄養剤に分類されます。

【成分栄養剤】

成分栄養剤は、窒素源がアミノ酸のみで構成されています。また、化学的に明確な成分から構成され、脂肪含有量が低いため、長期間投与する場合は必須脂肪酸欠乏症予防のために経静脈的に脂肪乳剤の併用が必要となります。

エレンタール®（エレンタール®P は小児用）が適応となるのは、短腸症候群や膵外分泌機能不全などの吸収不良症候群、クローン病に対する寛解導入・寛解維持療法、重症急性膵炎に対する早期経腸栄養などがあります。

一方、ヘパン ED®は肝不全用の経腸栄養剤で、肝不全における血中のアミノ酸バランスの乱れを是正する効果があります(表１)。

表１当院採用の成分栄養剤の比較

| 製品名 | エレンタール®配合内用剤 | エレンタール®P乳幼児用配合内用剤 | ヘパンED®配合内用剤 |
|---|---|---|---|
| 製剤写真 | | | |
| 薬価 | 452.8 円/袋 | 346.8 円/袋 | 452.8 円/袋 |
| 特徴 | | 小児用（原則２歳未満） | 肝不全用 |
| 味<br>（フレーバー） | 青りんご、パイナップル、コーヒー、オレンジ、ヨーグルト、グレープフルーツ、<br>さっぱり梅、フルーツトマト、マンゴー、コンソメ | | |
| 熱量(袋) | 300 kcal | 156 kcal | 310 kcal |
| 容量 | 80 g | 40 g | 80 g |
| １包装あたりの含有量 | | | |
| 窒素源（アミノ酸） | 14.1 g | 5.2 g | 11.4 g |
| 脂質（ダイズ油） | 0.51 g | 1.4 g | 2.8g |
| 糖質（デキストリン） | 63.41 g | 31.0 g | 61.7 g |
| ナトリウム | 0.26 g | 0.15 g | 0.18 g |
| カリウム | 0.22 g | 0.25 g | 0.22 g |
| カルシウム | 0.16 g | 0.17 g | 0.25 g |
| 鉄 | 1.8 mg | 2.6 mg | 1.1 mg |
| 亜鉛 | 1.8 mg | 1.5 mg | 3.6 mg |
| 銅 | 0.2 mg | 0.2 mg | 0.2 mg |
| マンガン | 0.3 mg | 0.3 mg | 0.3 mg |
| 溶解後の保存 | 調製後12時間以内に使用 | 溶解後6時間以内に使用<br>冷蔵して保存する場合は、30時間以内 | 溶解後6時間以内に使用<br>冷蔵して保管する場合は24時間以内 |

【半消化態栄養剤】

半消化態栄養剤は、窒素源がたんぱく質であり、脂肪も必要量が含まれています。吸収するためには消化が必要となるため、脳血管障害や神経疾患・上部消化管の通過障害など、消化・吸収機能に異常がない場合は、半消化態栄養剤が第一選択になります。

当院採用の半消化態栄養剤には、エンシュア®・H、エネーボ®、イノラス®、ラコール®NF の 4 種類があり、その特徴や組成が異なるため、患者に合わせた選択をする必要があります（表２）。

表２　当院採用の半消化態栄養剤の比較

| 製品名 | **エンシュア®・H** | **エネーボ®<br>配合経腸用液** | **イノラス®<br>配合経腸用液** | **ラコール®NF<br>配合経腸用液** |
|---|---|---|---|---|
| 製剤写真 | | | | |
| 薬価 | 230 円/缶 | 198 円/缶 | 274 円/パウチ | 196 円/パウチ |
| **特徴** | **味の種類が多い** | **微量元素が強化された組成** | **少量で十分量の熱量・<br>ビタミン・微量元素を摂取可能** | **標準的な熱量濃度の製剤** |
| 味<br>（当院採用） | バニラ、コーヒー<br>バナナ、メロン | バニラ | リンゴ | ミルク、コーヒー |
| 熱量<br>（濃度） | 375 kcal<br>(1.5 kcal/mL) | 300 kcal<br>(1.2 kcal/mL) | **300 kcal<br>(1.6 kcal/mL)** | 200 kcal<br>(1.0 kcal/mL) |
| NPC/N比 | 157 | 116 | 134 | 120 |
| 容量 | 250 mL | 250 mL | **187.5 mL** | 200 mL |
| 1 包装あたりの含有量 | | | | |
| タンパク質 | 13.2 g | 13.5 g | 12.0 g | 8.8 g |
| 脂質 | 13.2 g | 9.6 g | 9.7 g | 4.5 g |
| 糖質 | 51.5 g | 39.6 g | 39.8 g | 31.2 g |
| 水分量 | 194 mL | 203 mL | 140 mL | 170 mL |
| ナトリウム | 0.30 g | 0.23 g | 0.27 g | 0.15 g |
| 食塩相当量 | 0.76 g | 0.59 g | 0.69 g | 0.38 g |
| カリウム | 0.56 g | 0.30 g | 0.55 g | 0.28 g |
| カルシウム | 0.20 g | 0.29 g | 0.27 g | 0.08 g |
| 鉄 | 3.4 mg | 4.4 mg | 3.7 mg | 1.3 mg |
| 亜鉛 | 5.6 mg | 4.5 mg | 4.0 mg | 1.3 mg |
| 銅 | 0.4 mg | 0.5 mg | 0.3 mg | 0.3 mg |
| マンガン | 0.8 mg | 1.4 mg | 1.3 mg | 0.3 mg |
| その他<br>必須微量元素 | – | **セレン 20.0 μg<br>クロム 31 μg<br>モリブデン 34 μg** | **セレン 16.9 μg<br>クロム 13 μg<br>モリブデン 10 μg<br>ヨウ素 43 μg** | セレン 5.0 μg |
| その他 | コリン | コリン、タウリン<br>カルニチン | コリン、イヌリン<br>カルニチン | – |
| 開封後の保存 | 密閉して冷蔵庫で48時間以内 | | 冷蔵庫で24時間以内 | |

半固形栄養剤（ラコール®NF 配合経腸用半固形剤：300g/バッグ）は、特に誤嚥性肺炎防止や褥瘡の発症・悪化防止に有用であり、さらにボーラス投与が可能なため介護者の負担軽減にもつながります。ただし、性質上、投与には 20Fr.以上のチューブ径が必要です。

【参考】各医薬品の添付文書、およびインタビューフォーム
静脈経腸栄養ガイドライン第 3 版
PDN レクチャーテキスト Chapter2 経腸栄養 2.経腸栄養剤の分類

本件の問い合わせ：薬剤部・調剤室（内線 2720）